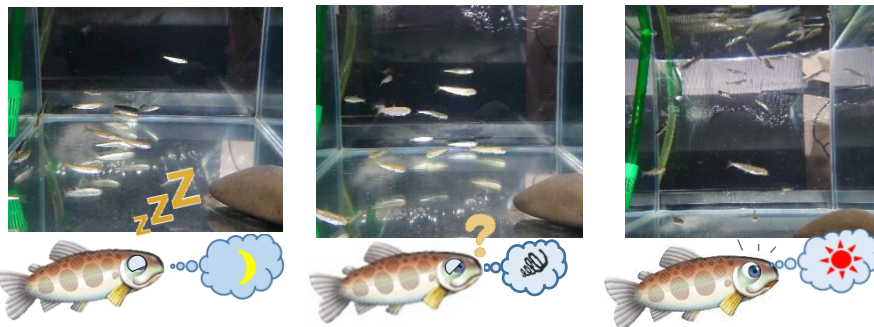


2021年3月8日(月)

寝ているサケたち

サケも夜は寝ています。
 部屋が暗いといつまでも夜だと思ってしまうので、朝、太陽のかわりに部屋の電気をつけて明るくします。
 水槽の底でじっとしていたサケたちがフワフワと浮くように動きだしますが、寝ぼけているのか、エサをあげてもすぐに食べようとしません。しっかり目がさめると水面に集まってわれ先にとエサにとびついて食べはじめました。



2021年3月9日(火)

幼稚園のサケたち

教育大学附属旭川幼稚園のサケたちも元気に育っています。よく見るとやせているサケもいますが、200尾もいるとどうしても強いサケと弱いサケで大きさに差が出てしまうのです。自然の川では弱いサケは生きられませんが、人からたくさんエサをもらえる今のうちに、生き抜くちからをつけていきます。



2021年3月20日(土)

動物園のサケの水槽

2週間ぶりに旭山動物園のサケの水槽を見に行ったら、小さな水槽が増えていました。水槽が増えるとその分世話も増えます。「ほっきょくぐま館」の中にあるサケの水槽ですが、お世話をしてくださっているのは「ペンギン館」担当の方です。

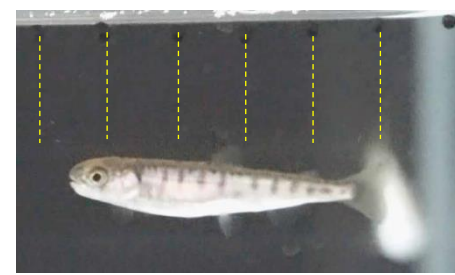
いろいろな動物の世話で忙しい中でも独自に飼育方法を考え、パネル展示やSNSで情報発信もされており、命を伝えることへの使命感や熱意を感じました。



2021年3月25日(木)

サケの大きさ

放流も近くなってきたので、サケの大きさを測ってみました。体重は0.9グラム、全長は4.7センチくらいでした。これは今すぐ放流してもよい大きさです。あまり大きくなりすぎると、無事に海へでることができなくなるので、明日から少しエサを減らすことにします。



ちょっと食べすぎたかなー

2021年3月28日(日)

幼稚園のサケが旅立ちました

教育大学附属旭川幼稚園で育てていただいた200尾のサケが、動物園や私たちのサケより一足先に川に放されました。
 天候は晴。気温も10℃を超え、最高の放流日和です。幼稚園の子どもたちもたくさん参加してくれて、佐藤園長が見守る中、3か月の間幼稚園で育てていたサケをやさしくそっと川へ放流していました。
 サケの稚魚にとっては長い旅のスタート地点ですが、大きくなってもどってくるゴール地点でもあります。
 この場所のにおいをしっかりおぼえてもどってきてね!



今日放流したサケは石狩湾から海に出て、アラスカ湾まで行き、おおくは3年から4年で川へ帰ってきます。でも生き残って帰ってこられるのは、200尾のうちの数尾になってしまいます。